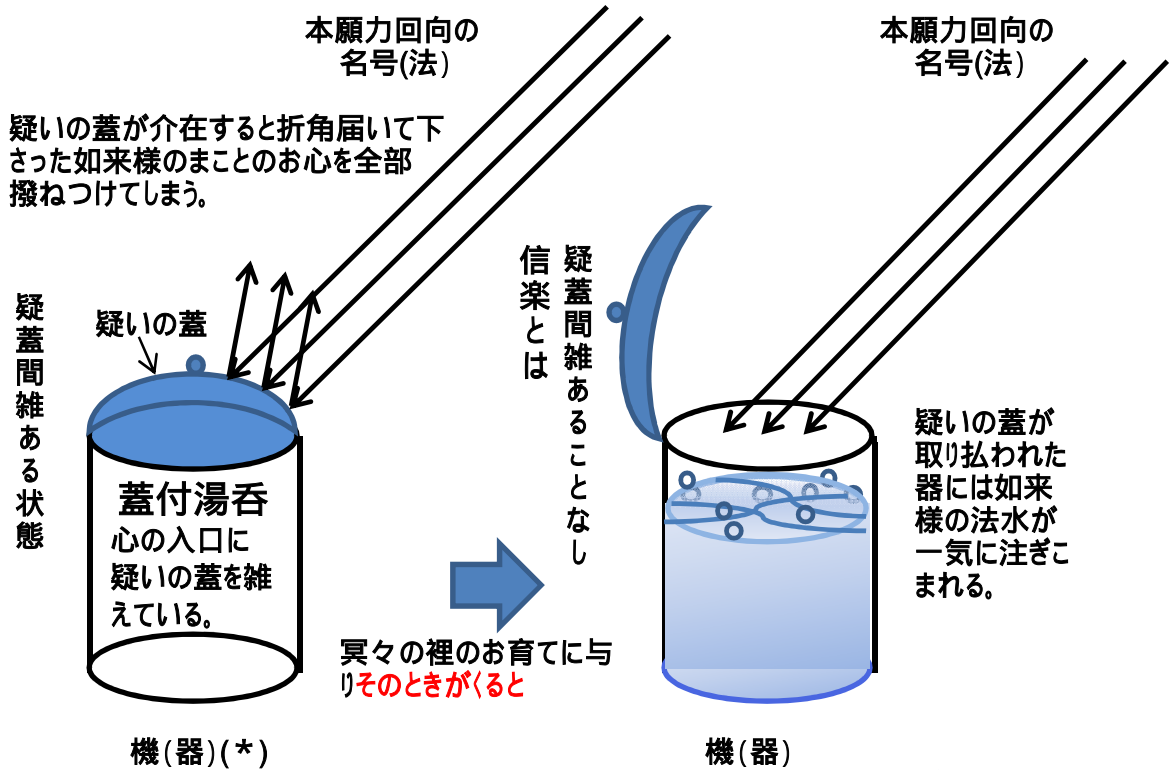


信心獲得の構造

Ref) 梯 實圓和上の「蓋付き湯呑と法水の譬え」によりて
2009/4/21行信教校「安心論題」ご講義



信の反対概念である「本願疑惑」とは、自力のはからいのことである。

「自力のはからい」とは、人間の分別的な知性に基づく虚妄分別をいう。

Ref) 梯 實圓「教行信証」信巻P13

* 註「機(器)」について
「機」 仏の教法を受けて救われるべきもの。衆生、人間をいう(Ref)注釈版巻末註P1472)。

「器」 仏の教えを受け取る人間のこと(Ref)注釈版巻末註P1471)。
・例) 観經疏 華座觀 住立空中尊に「器朴の類万差なり」という用法がある。(Ref)七祖註釈版p423)

信の構造は二段階より成ると解される

1. 疑いの蓋が取り払われる状態
疑いの蓋が取り払われるや否や、如来様の法水が一気に注ぎ込まれる。
信心獲得の瞬間である。

疑ふころのなきなり(Ref)「一多証文」註P678)

2. 本願のお心が私の心を占領した状態
如来様の法水が注ぎ込まれると愚かな凡夫の心に如来様の真のお心(本体はお名号)がお宿り下さる。
信心を頂戴した状態である。

疑ひなきころなり(Ref)「唯信鈔文意」註P699)

お宿り下された如来様の智慧の眼で世界を見る目が開かれる
その日から内側から如来様のお育てに与るのである。

信心の特徴

信相釈

二心(疑の蓋)がない状態である。

時剋釈

信心獲得は一瞬である。